

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500294		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	グループホーム 新賀		
所在地	笠岡市新賀3220-25		
自己評価作成日	H30年3月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500294-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500294-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成30年3月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切に、1人1人の希望を尊重したケアを提供いたします。」の理念を基にご本人様やご家族様の想いを受け止める様に、関わりをもつ姿勢を大切にしている。  
 ・季節感を感じられるように、様々な行事を行ったり、花やインテリアにも、四季を感じてもらっている。  
 ・家族交流の為、年に2回(春・秋)家族会を行っている。  
 ・食事に関して、味や食感、見た目(器)に注意しながら、食欲を増すように目で楽しんでもらっている。  
 ・兼務の看護師が在籍しており、日々の中で変化があれば、医療機関と連携をとり、出来る範囲は限られるが、最善のサポートを心掛けている。(看取りにおけるケアも含める)  
 ・キャリアアップを図る為、全職員が研修に参加している。  
 ・介護支援専門員が専任となる。

## 【前頭側頭型認知症の人を専門的にケアしているグループホームがどんなマネージメントをしているのか】

「このホームの一番の誇りは？」と聞かされると、管理者は透かさず「食事です」即答でした。「このホームで一番楽しいことは？」と利用者に聞くと、「ここのご飯は美味しいよ」「皆と一緒に食べることが一番楽しい」と、どの利用者も即答する。15年近く訪問した私達も「献立、食材、下拵、調理、食器と盛り付け、配膳、食事風景、片付けの行為に利用者職員との係りが素晴らしい。言う事なしです」と言います。食事をするという行為は「臭覚・味覚・視覚・聴覚・触覚—認知—感情—思考—表情—言葉—行動」等の全機能を使った人間力も高められるものだと思う。料理の基本は“だし”にあるという言葉をもとにして料理を作っているが、転属してきた若い男性職員も料理のこの基本に準じて腕を挙げたそうだ。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切にし一人一人の希望を尊重したケアを提供いたします」を理念とし、いつでも目にする事の出来る事務所前へ掲げている。	利用者は調理の中で食材の下拵をしたり、時には味見をして、美味しい食事作りに参加している。野菜や花を育てる畑仕事にも参加している。リビングルームの食卓にはいつも花が生けてあり、心の癒しになっている。また、食卓に集まる利用者が一緒に笑顔で話し合い、レクリエーション出来る姿を見れば理念の掲げている思いが実現できていると思う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域サロンや秋祭りのお神輿の見物をしたり、隣接する老健や病院のイベントに参加して交流の機会を増やしている。	訪問した日に利用数人と職員と一緒に病院の下で満開の桜見物をする際に私達も一緒に出掛けた。手を継いでお喋りを交わしながら楽しい一時を過ごせた。運営推進会議は4つのグループホームが合同で開催しており、グループホームの交流もしている。その時各ホームが一品ずつ食事を持ち寄って食事会をしたそう。このホームからは高タンパク低カロリーの一品料理を出して食事の交換会をしていると聞いた。病院、老健施設ケアハウス、デイケアそして4つのグループホームの出逢いこそ地域交流といえる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域サロンを通して、少しずつ改善し始めている。今年は市が主催した「地域密着型事業所の普及啓発講演会」に参加し、パネル発表を展示した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在2か月に1度、運営推進会議を開催し、民生委員・地域・市のスタッフの方々に参加して頂き、グループホームの取り組みを報告し意見をサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回、市職員・地域の代表・民生委員そして各ホームの管理者が出席して運営推進会議を開催している。各ホームの利用者の状況や活動内容を報告し情報交換をしている。このホームでは利用者が全員女性で、大正生まれ93才を筆頭に昭和一桁生まれの人が7人と76才の最年少の人で構成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に相談をしたり、市役所を訪ねる等、協力関係を深めている。	このホームは介護保険制度が始まった平成12年4月1日に事業開始した。引き続き4つのグループホームを開設運営した。笠岡市の直系で運営したグループホームもあり、認知症の人をどのようにケアしていけば良いのか、本人や家族も安心して暮らせるようパーソン・センタード・ケアの技法を実現すべく笠岡市との連携を密にしてきた歴史がある。その時から認知症の人の生活には食事を第一に掲げてきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人老健施設の委員会・勉強会やキャリア形成訪問指導に参加し、正しい理解ができるように学んでいる。事例検討を重ね、ケースごとの工夫を相互に話し合い、グループホームでの対策に活かしている。	グループホームは認知症の人が安心して満足な生活をする場で薬物の力で抑えるのではなく、人間の力で病気になる障害を乗り越えて笑顔で楽しい生活が構築できる場を提供するホームの運営に全国をリードしてきた。初期から拘束や虐待防止に取り組んできた歴史がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人老健施設の委員会・勉強会やキャリア形成訪問指導に参加し、正しい理解ができるように学びケアの見直しをお年寄りの状態に合わせて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キャリア形成訪問指導にて成年後見制度の基礎や実態について学んだ。実際に利用している方の具体的な話を聴くこともできた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族に説明を行い、契約をしている。不安な事や疑問などゆっくりと時間をとり、解り易い言葉を使い説明を心がけ、御家族との会話を記録してスタッフで情報共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明時に利用者の近況を伝えるようにしている。職員の誰もが御家族の要望や質問に応えられるように申し送りノートを活用し、又、話しやすい関係を家族との間につくっている。	家族がホームを訪問し、職員が報告や相談を受けた時の内容が相談業務記録に(Fa)(ス)の会話体で保存されている。これにより職員間では家族の安心、信頼の内容を把握出来ている。個人記録の中に人生歴があり、幼少期より定年退職期まできめ細かく記入し、個人的な嗜好、趣味、読書など書いているが、常に補充しておくとうまいと考える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のミーティングでスタッフの意見交換を行い、情報の共有を行っている。申し送りノートを活用し、職員の気づきや意見も気軽に記している。又、その場で話が出来るように時間にゆとりをもつよう心掛けている。	平成29年4月の目標達成計画に「チームケアの統一」を掲げ、「職員のそれぞれが、口頭だけでなく記録として報告、連絡、相談できる体制にする」と具体的に提案していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気兼ねなく意見を言えるような雰囲気をつくり、職員一人一人が、お互いに協力し合える関係が出来ている。又、利用者の状態に応じて喜んでもらえるようなことを常に考えており、その場で話が出来る環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人老人保健施設の情報や認知症グループホーム協会からの情報等をもらい、全職員に確認してもらい、学びたい想いを損なわないようにすすめている。学んだことに関しては、研修内容を記し、ミーティング等で報告し、情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループホーム間で定期的に部会(意見交流会)をしたり、研修を受け入れ意見交換を図り、ケアの改善に努めている。今年は「地域密着型普及啓発講演会」に参加し、他社のグループホームから話をする機会が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の想いを気にかけて、出来るだけ不安を感じることがないように声かけを行っている。又、必要に応じて入居前に本人の状況について事前に情報を入手することもある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前や入居時において御家族に対して不安な点や要望などを聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の性格や日々の過ごし方、要望などの情報を本人または御家族から聴くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係に努め、共に生活する者同士として楽しくまた、安心して過ごせるように尊重し、交流を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との繋がりを大切に考え、行事の際は全利用者の御家族にお知らせの手紙で報告している。又、日々の面会も気軽に来てもらえるように努めている。その際は、落ち着いた環境で過ごしてもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方が来られた時は居室など落ち着いた環境で過ごしてもらえるように努めている。又、手紙などを頂いた時は近況が分かるようにお返事をするなど、これまでの繋がりを続けられるようにしている。	以前に知っている人がホームを訪問してくれたり、訪ねたりする機会は法人内の病院や老健施設、ケアハウスでの知り合った関係もあると思う。ホームの中でお喋りの中に、その人が経験したり、自分の一番印象に残った事をお喋りする機会に紹介する事で共鳴や共感出来る事で話が盛り上がることによって気持ちの中で過去の出来る機会を作っておいて欲しい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の価値観などを大切に、利用者同士の相性なども気かけながら必要に応じて職員が間に入り関わりが持てるように働きかけている。1人で過ごしたい場合もその時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても気軽に立ち寄って頂けるご家族もいる。又、必要に応じて相談できる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や御家族の話の中から、その人らしさや想いを聞き取り、ケアに反映させるように努めている。	利用者の思いや意向についてはその時の問いかけに対する答えだけでなく、例えばこのホームで一番利用者が関心の高いのは「食べる」ことだろう。美味しい食べ物に関わることは利用者にも共通する時代は戦前、戦中、戦後の時代の思い出が大きいと思う。その時代の話の問いかける事により、思わぬ生活への希望等が読みとれるかも知れない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談や情報提供書、生活歴を参考にしたり、本人や御家族との話の中で知りえたこれまでの経緯について記録に残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での出来事や言葉に傾聴し、職員間で話し合っ心身状態や残存機能等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から本人や御家族の言葉を傾聴しそのことに対して職員間で話し合う時間をつくり、ほんにんの状態に応じたケアプランになるように努めている。	平成29年4月の目標達成計画に「記録の書き方の見直し」を掲げ、「利用者一人ひとりの表情や言葉、行動に対してどのように関わり、どのように変化したのか、その人が見える記録を残し、アセスメントやケアプランに繋げていく」とある。釈迦に対する説法であるが、BPSDを起こさないよう「聞き方・話し方」に十分に配慮して利用者の呼吸を感じながら「声」を拾い続ける「心のケア」を發揮してもらいたい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には一日の本人の過ごし方や想いなどを記し、ミーティングやカンファレンスで職員の気づき等を話し合っ情報を共有し、それを基にケアプランの見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族の日々の関わりで得た声を大切にし、同法人老人保健施設や病院、市に相談してサービス多機能化を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地条件が悪く地域の資源は十分ではないが市や地域の機関と連絡を取り合い、活用できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回エスポール病院の担当医に診察を受けている。また、状態の変化に応じ受診だけでなく、相談しやすい環境で支援体制が整えている。	母体法人が認知症専門の病医であり、院長始め担当医が診療に当たってくれるので本人も家族も安心している。ホームの職員に看護師がおり、特に食事については高い見識を持っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がおり、日々の健康面・身体面・精神面を生活の中で見ている。スタッフも日々の生活の中で変化を観察しており、いつでも看護師に相談し、対応できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時医療連携をし、御家族や医療機関と話し合い・情報交換を行っている。必要に応じて情報提供書の作成も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師が居るため、何かあれば相談・指示をもらえる体制が出来ている。御家族とも話し合いを行い、またチーム内でも話し合い、緊急でミーティングを行ったりして情報の共有に努めている。	昨年からターミナルケアをしていた2人の利用者が居た。医療処置を施す必要がないのでホームでの生活を続けているが、一人は少しずつ食事を口にしながらケアしてきた甲斐あって普通の生活ができるよう回復したようだ。人間、自分の口から食べる事のどれだけ重要かを実証できた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しいスタッフも加わり、緊急・事故発生時に備えたマニュアルを基にして、体制作りをしている。応急手当に関しては、看護師の指示のもと行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。近隣のグループホームとの合同訓練も行っている。同法人内の委員会で、色々な場面で協力・対応出来るよう見直しを行っている。また、災害用ガスコンロや水の備蓄を用意している。	平成29年4月の目標達成計画の中に「災害マニュアルの作成と見直し」を掲げた。この法人の諸施設に相談し助言をもらいながら避難の流れや災害に関する情報をまとめマニュアル作成の見直しをしている。このホームの立地から個々に避難訓練するより、施設全体で考える事によって自衛消防体系の中で実践した方が良いと思う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の価値観、想いを尊重し、それぞれの誇りやプライバシーを損ねない対応に配慮している。	トイレ、洗面は自室で出来るので、基本的なプライバシーの保護はされている。しかも、利用者と職員の信頼関係が日常の会話や態度からも保たれていると思う。笑顔で視線を合わせて優しい声で話しかけているので利用者に安心感を与えている。パーソン・センタード・ケアの基本「思いを聞く」「情報を集める」「ニーズを見つける」の3ステップの実践を見る事が出来た。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者同士の会話、スタッフとの会話の中での思いや希望を御家族にご相談をし協力をしてもらったり、必要時にはミーティングをしたり実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お年寄りの入・退去もあり、その人らしい生活を十分に把握は出来ていない方がいることが現状だが、職員間で話し合いを随時行い、把握出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服、装飾品などその人らしくあるために本人、御家族と話しをして持ってきて頂いたり、一緒に買い物に出て本人に選んでもらい、季節感も楽しんでもらっている。また、訪問美容も取り入れ希望の髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器洗いなど一緒に準備出来るお年寄りには手伝ってもらう。行事や誕生日も大切にしており、味付けだけではなく見た目でも楽しめるように様々な食器での盛り付けをして、気をつけている。	このホームの最大の魅力は「毎度の食事」にある。職員と利用者の生活の基本で、利用者の出来る事は皆です。食材の下拵え、テーブル拭き、時には「味見、食後の片付け」等、利用者が手伝う。厨房が利用者の席の中にあると言っても良い程の距離で調理、配膳しているので、5感全部働かせながら食べるという行動につながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は変化のある方は記録に記入している。本人に合った食事量や椅子の高さを合わせたりし、少しでも箸が進むように目線に合った食器やコップを選んで盛り付けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携して、歯の不具合があれば往診してもらっている。その際にアドバイスや助言を頂く事もあり、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の間隔やサインに気付き、プライバシーに配慮した声かけを行い誘導している。出来ることはしてもらい、また、汚物の処理も解らないよう工夫している。	排泄は生活シーン別で聞き方、話し方の一番大切な場面である。プライバシーの尊厳の最も必要な場面となるが、職員は基本的に研修や訓練を受けているので安心して見ていられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や運動、自然排便出来るように促している。個々の病状に応じて看護師・医師に相談・診察してもらい、定期的な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日時は決めず、1人1人に合わせている。お年寄りのその日の体調や気分に応じて、臨機応変に対応できるようにしている。	入浴は脱衣するまでは聞き方、話し方の一番大切な場面であるが、湯船でゆっくりすると逆にコミュニケーションをする絶好の機会であり、話題を投げ掛けると利用者の心を知る事が出来ると思う。そこで知り得た情報は記録に残しておいてもらいたいと思う。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休んでもらうよう日中の活動を重視している。また、眠れないときや不安を感じる時は安心して休めるよう働き掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、説明書をいつでも確認できるようにしている。服薬の際には声掛けを行い、服薬後まで確認している。薬が変わった時は特に本人の様子を気にかけて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好み、意向を把握したうえで、本人に声かけをしながら、利用者の声を大切に、日々の暮らしが少しでも喜びのあるものになるように関わっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、行事の時・要望があった時など散歩やドライブ・買い物等、気分転換も兼ねて行っている。	天候が良くなり散歩や外出、ドライブ、買物、外食等よく外出できる季節となった。訪問して5人の利用者、2人の職員と私達で病院下の満開の桜を見に行ったらホームの玄関前の広場に机と椅子を出してくれ、戸外でお茶を飲みながらお話をすることが出来た。女学校時代のエピソードや子供の話を聞くことが出来た。その時の表情は豊かで満足していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理することは困難であるが、利用者からの訴えがあった時には一緒に買い物に行き、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等訴えがあれば応じているが上手く伝えられない場合もあり、スタッフが代弁したり必要に応じて対応している。携帯電話を持参されている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるようインテリアを工夫している。明るさや掲示物の高さ、本人に合った椅子等快適に過ごせるようその時の状態に応じて対応出来るように工夫している。	リビングルームは1階と2階に分かれている。朝は1階のリビングに集まって歌を歌ったり話に弾む場面がある。又、調理の手伝いをするグループもある。塗り絵をする人等様々である。この場面で職員はその様子を見ておき、それぞれの人の機能の変化を確認しておくことと生活面から見た中核症状の変化を確認する事も出来ると思う。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いに過ごせるよう、好きな席でTVを見れるリビングスペースなど、考慮している。また、気の合う入居者などが過ごせる居場所作りをし、その人に応じた配慮をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は落ち着いて過ごせるよう御家族に協力をして頂き、馴染みのものを持ってきてもらい、写真や絵を飾りその人らしい部屋を作っている。	利用者の生活拠点である居室は先ず安全と安心である事が大切である。本人の転倒や事故がないような居室づくりを考えて部屋づくりをしている。次にその人が安心して居心地の良いよう思い出や生活意欲が生まれるよう写真や作品等、部屋づくりに色々工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りになっており、安全面に配慮している。エレベーター完備であるが、階段で降りたい方は階段で下りてもらうなど、出来ることを奪わないよう配慮している。		